



令和6年度 校長だより

令和6年4月8日(月)

春日の風Ⅲ

No. 1

文責 松下 義彦

新年度のスタートにあたり

みなさん、こんにちは。令和6年度が今日からスタートします。昨年度の校長だより「春日の風Ⅱ」に引き続き、今年「春日の風Ⅲ」として、生徒のみなさんの頑張りや私の思いを伝えていきたいと思えます。まずは、始業式で生徒のみなさんにお話した内容を掲載します。本年度、みなさんに頑張ってもらいたいことを書いていますので、一人一人が意識して、様々な活動に取り組んでください。

【始業式での話】

みなさん「おはようございます。」

いよいよ今日から令和6年度が始まりました。まずは、2・3年生のみなさん、進級おめでとう。みなさんもそれぞれ進級して、今こうして一人ひとりの顔を見ていると昨年度とは違った引き締まった緊張感がみなぎっているように思えます。

3年生は最上級生として、本校を代表する顔になります。また、体育会、中体連や文化発表会などたくさんの行事等のリーダーとして活躍の場があります。いろんな場面で、リーダーになるということは、後ろについてきている後輩への責任を背負うということです。2年生は、10日に入学してくる新1年生を様々な活動で引っ張っていく学年になります。今までのように、上級生に頼るだけの気持ちではなく、学習でも運動でも部活動でも自分から積極的に動き、後輩から頼られる先輩になって欲しいと思っています。

さて、令和6年度の前期の始業式にあたり、みなさんにお話したいことがあります。それは、みなさん一人ひとりがこの一年間を振り返った時に、それぞれが「自分は成長した」と言えるような一年間にしてほしいということです。

それでは、「自分が成長した」と言える一年間にするためには、どのようなことを行う必要があるでしょうか。

これから前期が始まるわけですが、今日のみなさんの顔を見ていると、それぞれが新しい気持ちで何かにチャレンジしていこうとしているように思えます。その内容は一人ひとり様々だと思います。ある人は勉強のこと、ある人は部活動のこと、またある人は自分の趣味のこと、さらに自分の性格や友達関係のことかもしれません。大切なのは、何かに挑戦しようとする気持ち、つまり、夢や目標をもつことであり、また、やろうと決めたことは、一年間継続してやっていくことなのです。しかし、私も含めてふつうの人間は飽きっぽいところがありますし、怠け心もあります。また、何か困難にぶつかると諦めてしまいたくなるものです。

そんな時には、ぜひ、「**為せば成る**」という言葉の思い起こしてください。この言葉の意味は、「努力すれば必ず達成できる。」という解釈もありますが、ただ単に「努力をすれば必ず達成できる」ということではなく、「何かを成し遂げるためにはまず行動し、諦めず、達成させるという強い意志を持ちなさい」という意味だと校長先生は捉えています。行動したその結果を問うものではなく、絶対に達成するという「強い意志」と最後までやり通すという「あきらめない心」をもつことの大切さを説いた言葉です。

また、みなさんは「**ローマは一日にしてならず**」という言葉を知っていると思いますが、これは、あの永遠の都と言われ、ヨーロッパ文明の中心として栄えた都市、ローマも決して簡単につくられたものではなく、長い年月をかけてつくられたという意味です。このことから、目標を達成するためには一日一日の積み重ねが大切であるということを述べている言葉なのです。何事もそう易々と自分の思うように行くものではありません。あせる必要はありません。もし、何か壁にぶつかったときには思い切って体を休めることも大切です。

そのような時に、支えになってくれるのは友達であり、家族であり、学校の先生だと思えます。そして、しばらく休んだ後は、「為せば成る」という言葉を心の中で反復し、あらためてチャレンジを開始してほしいのです。

この3月卒業した先輩たちが残してくれていった「元気なあいさつ」と「明るい笑顔」、そして、「団結力」をしっかり受け止めて、さらによい学校づくりを進めていきましょう。みなさんの活躍を期待しています。



為せば成る

～「強い意志」と「あきらめない心」～